

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス LUMO金楽寺校		
○保護者評価実施期間	2025年 1月 22日		2025年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	44	(回答者数) 43
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		2025年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 3日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	校舎の雰囲気が明るい	お子さまや保護者様と関わる時の表情や声のトーンを、明るく元気のいいイメージがもてるよう工夫をしている。また指導員同士が日ごろからコミュニケーションをとり関係性を構築していくことで、大人間の雰囲気もよくなるように意識している。	引き続きお子さまや保護者様への表情や声のトーンを意識しながら、ご家庭でのお子さまの姿や保護者様の思いを気軽に話せるような、関係性の構築のための気配りやお声かけを積極的に行っていく。
2	保護者様からの利用に関してのご相談や送迎のご相談に対して柔軟に対応	無理のない程度で可能なご希望やご相談には前向きにお応えするよう意識している。ご相談があった際には指導員間で共有、相談をしできるだけ寄り添った対応ができるよう工夫をしている。	アンケートの内容を真摯に受け止め、校舎内で共有、話し合いを行うことでお子様や保護者様のニーズに合った支援ができるようにしていく。
3	集団の運動の中で一人一人のお子さまの課題に合わせたメニューの設定をしている。場面に応じて個別のサポートも行っている。	お子様一人一人としっかりと関わる中でお子様の特性や課題感を知ることを意識している。お子様のことを知ることで、メニューの設定の際に取り入れやすい。	把握している一人一人の特性や課題感を、計画書などにもしっかりと活かすことで保護者様との共有や支援方針をしっかりと定めていけるようにしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	運動スペースが狭い	・運動スペースが狭いため十分に運動ができない・ぶつかりやすい・痙攣やパニックになった時のクールダウン室がない	・道具を直す場所を工夫し最大限に運動スペースを確保している・痙攣やパニックが起きた場合は事務室やトイレをクールダウン室の代用している・静と動の運動で座ってできる運動やその場でできる運動などを取り入れている(ヒトデバンザイ、ゆりかご、スーパーマン等)
2	お子さまの楽しみにつながっておらず、行き渋りや当日のキャンセルがある	・お友だちと関わる機会を設けているが、年齢が近いことからトラブルになることが多い・気持ちの切り替えが難しくおうちや学校で嫌なことがあると来校することが難しくなる	・継続してペアワーク、グループワークを取り入れ正しいお友だちとの関わり方、思いやりの気持ちをもてるよう適切な声かけを行う。
3	指導員の入れ替わりが多くお子様や保護者の方々と関係性が築きにくい	関係性ができていた指導員が退職をしたり、新しい指導員がきたりとここ半年だけでも大きく環境が変わっている。そのため環境の変化が苦手なお子様や人見知りなどのお子様にとっては不安感に繋がっていると感じる。また同時に保護者様の不信感にも繋がってしまうと感じる。	お子様とは日々の送迎中や運動時間に積極的に関わり、顔を合わせたコミュニケーションの時間を大切にする。保護者様とのフィードバックの際にお子様の様子をしっかりと伝え、原始反射を交えた運動の説明を行うことで、普段の運動の様子を知っていただく。できるだけ動画をお送りし、安心して利用できるようにしていく。